

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きららにじぐみ（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和6年12月20日		～ 令和7年1月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数) 21名
○従業者評価実施期間	令和6年12月20日		～ 令和7年1月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月3日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種（保育士、社会福祉士、言語聴覚士）がそれぞれ専門性を発揮し、連携ができています	モニタリングでは、それぞれの技術や役割をもとに意見を出し合い、個別支援計画に記載された内容の実行状況を確認し、見直し案を検討しています。	それぞれの専門性を理解するために研修を行う。
2	こども園に併設しているため、入園している利用児は集団での困り感を把握しやすい	こども園の担任と情報交換会や会議を行っている	保育現場の状況をより把握できるよう、文章等でも回覧していきたい

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	にじぐみを利用している保護者間のつながりが少ない	児童発達支援管理責任者が保護者と面談を行っているが、保護者同士で話ができる機会がない	保護者会や茶話会、または保護者に向けた研修会等を行えたら良いと考えている
2	他事業所との交流の機会が少ない	担当相談員とは連携ができてはいるが、他の事業所や他園とはモニタリングの機会等の必要最低限になっている	利用児の細かな変化を共有する機会をつくれるよう、当事業所発信で連絡をする機会を増やしていきたい
3	保護者が見学する機会が少ない	利用児の実際の支援を見る機会が少ないため、「わからない」というご意見があったのではないかと考えている	ご利用前のご見学では室内を見学していただいているが、実際のこどもの姿を見ていただく機会を作ることで、よりにじぐみを知っていただき、安心できる事業所になるように努めていきたい